

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4670800244
法人名	特定非営利活動法人 NPO みなまた
事業所名	グループホーム 三郎の家
訪問調査日	平成 20 年 7 月 30 日
評価確定日	平成 20 年 9 月 12 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	4670800244
法人名	特定非営利活動法人 NPOみなまた
事業所名	グループホーム 三郎の家
所在地	鹿児島県出水市住吉町6-18 (電話) 0996-65-7740

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成20年7月30日 評価確定日 平成20年9月12日

【情報提供票より】(20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 5月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算 8.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 1階建て
------	---------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷金	有			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	- 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	0名		
要介護3	4名	要介護4	5名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	78歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	水俣共立病院・水俣共立クリニック・東医院・福留歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム三郎の家は、海の入江に漁船が停泊している風景が、居間や廊下・居室から眺められる、職員が自慢の場所である。ホーム内では、日中は車椅子は使わずに、利用者のペースで、職員が介助して歩いている。シルバー事業の職員に昼食を作り通してもらい、職員ができるだけ利用者の支援ができるように工夫している。このような工夫で、職員も心の余裕が持て、利用者のペースに添った接し方や職員同士のコミュニケーションが取れるようになり、利用者・ご家族が安心できるグループホームが出来上がってきている三郎の家である。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の外部評価は、それぞれ改善に努めているが、改善経過の記録がない。現在も改善を継続しているものもある。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価について、職員に必要性と理解の仕方について説明し、職員個々に、自分のサービスケアについて自己評価してもらい、管理者がまとめて作り上げた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>民生委員・公民館館長・市職員・近所の方に参加してもらい、2ヶ月に1回開催されている。出席者のアドバイスで、地域の方々との交流の機会が増えてきている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>母の日などのグループホームでの行事の後に、家族会を開催している。職員は、家族からの意見について話し合ったり、申し送り等で、共有している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、回覧板を利用者と一緒にもって行ったり、リサイクル運動にも参加している。地元のお祭りに出かけ地域の方々との交流することに努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来使ってきた法人の理念「人権・安心・共生」を「三郎の家」の理念として、具体的に 私たちは、あなた自身を受けとめて、くらしを支えます。 私たちは、あなたの笑顔を大切に、心に寄り添います。 私たちは、地域を知り、地域の方々と同様になれます。 という理念に作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「三郎の家 私たちの理念」を、職員で話し合い作り上げている。また、理念の一つ一つの言葉の考え方を話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、回覧板を利用者と一緒に持ったり、リサイクル運動にも参加している。地元のお祭りに出かけ地域の方々との交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について、職員に必要と理解の仕方について説明し、職員個々に、自分のサービスケアについて自己評価してもらい、管理者がまとめて作り上げた。昨年の外部評価は、それぞれ改善に努めているが、改善経過の記録がない。現在も改善を継続しているものもある。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・公民館館長・市職員・近所の方に参加してもらい、2ヶ月に1回開催されている。出席者のアドバイスで、地域の方々との交流の機会が増えてきている。		

鹿児島県 グループホーム三郎の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加してもらい、色々相談して、意見をもらっている。市役所の実習生の実習の場としてグループホームを利用している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	今年度より、金銭明細書を送る際に利用者一人ひとりの写真を載せて、担当者がコメントを書いて送付している。面会時、金銭出納帳で報告し、サインをもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	母の日などのグループホームでの行事の後に、家族会を開催している。職員は、家族からの意見について話し合ったり、申し送り等で、共有している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年は、異動が多かったが、この一年職員の離職は少なく、職員のチームワークが出来てきて、利用者へのダメージを防ぐことができた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人の入職の際は、業務マニュアルに沿って指導して、業務を任せられるようになってから夜勤業務に、入ってもらうようにしている。外部研修後、ミーティングで報告している。問題点が上がったときは、その都度ミーティングで勉強している。今後は、テーマを決めて内部研修を計画していく予定である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加して、事例検討会が役に立っている。法人内で、交換研修をしようという意見がある。職員は、他のグループホーム間との相互訪問は、していない。		職員が、他のグループホームと相互訪問や勉強会をすることにより、日々のサービスの向上や職員育成に役立つ実践的な交流を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に、本人と家族と一緒に見学に来て、利用者や交流してもらっている。入居当時、家族に泊まってもらって馴染んでもらうこともある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者に、職員と一緒に洗濯物干し・洗濯物たたみ・新聞折(ゴミ入れ)などすることで、できる力を発揮してもらっている。仕事を手伝ってもらう場面作りをして、感謝の気持ちを表すようにしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者との会話や目配り、気配り、家族からの情報などから、利用者の思いや意向を把握するように、努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員に、利用者の気になる事・家族からの意見などを経過記録に書いてもらい、モニタリングで問題点について話し合い、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1ヶ月ごとにモニタリングをして、3ヶ月で評価している。介護計画は、6ヶ月毎に作成している。利用者に変化があった場合は、その都度見直ししている。</p>		

鹿児島県 グループホーム三郎の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月2回のかかりつけ医の往診があり、医療処置を受けながらの生活の支援をしている。病院受診の送迎をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望するかかりつけ医になっている。月2回、かかりつけ医が定期的に往診をしている。受診後の家族への情報伝達は、電話で報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	平成18年に急性期・重度化・終末期ケア対応指針を作り上げている。重度化に伴う家族の意思確認書は、まだ作成されていない。また、職員の方針の共有がなされているとは、いい難い。		これから利用者の高齢化が考えられるので、家族の意思確認書を作り、急変時に職員が対応できるように方針を統一することを望みます。また、家族・主治医・看護師などの繰り返しの話し合いを記録に残すことを望みます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人ファイルの表紙には、名前を書かずにイニシャルで記載するなど工夫がみられる。ミーティングで、秘密保持についてや損ねるような声かけはしていないかなど、再三話し合っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝寝坊したり、利用者のペースを乱さないように、希望に添って支援している。		

鹿児島県 グループホーム三郎の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じて、下ごしらえ、盛り付け、下膳、食器洗いなど職員と一緒にしている。職員は、検食者のみ同じ料理を食べ、他の職員は、弁当を持参している。日曜日の昼食のみ、職員は、利用者と同じ献立と一緒に食べている。		毎日、職員も同じ献立と一緒に食べ、利用者が親近感をもって楽しい雰囲気作りができることを望みます。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午前中に3～4人づつ入浴の支援をしている。拒む利用者には、声かけのタイミングや工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗面所掃除・おしぼり作り・台拭きなど力量を活かした役割や、ドライブ・歌唱・風船バレーなど楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	弁当を持って花見に行ったり、港周辺の散歩や自宅のあった場所へ行ったりと、利用者の希望に添って、支援している。気候の良い季節には、敷地内で畑作りや外気浴をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーが付けて、日中は、玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出傾向のある方は、職員と一緒に散歩して帰ってくるなど対応している。近隣の方へ理解を求め連絡してもらえる体制は、できている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、利用者と同隣の方々も参加して、避難訓練をしている。台風時の避難場所について、現在検討中である。非常食・飲料水の備蓄はしていない。		再々の夜間想定・地震想定での避難の自主訓練をして、自信をもって誘導できることを期待します。非常食などの備蓄を勧めます。

鹿児島県 グループホーム三郎の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昨年の評価で指導を受け、水分のチェック表を作成して、職員は共有している。栄養バランスのチェックがなされていない。		ある材料で献立を決めているため、野菜料理に偏りがちになっている。栄養士に、献立の栄養バランスのチェックをしてもらい、アドバイスを貰うことを望みます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルには、季節の花が飾られ、壁にはパッチワークの壁飾りが飾られている。入り江に漁船が停泊していて、利用者は、広い廊下に置かれたソファに座り、窓からゆっくり眺められるようになっている。食堂は、エアコンの冷たい空気が直接当たらないように、布を使って工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の部屋にベッドまたは布団を敷いて利用している。利用者の使い慣れたタンス・椅子・仏壇が持ち込まれている。		